

そほう
組報

多摩

No.13

組報 多摩 No.13
 発行日 2013年11月1日
 浄土真宗本願寺派
 東京教区 多摩組
 事務所/西照寺内
 東京都調布市若葉町1-39
 〒182-0003 TEL03-3300-7734
<http://www.tama-so.org/>



「築地本願寺親鸞聖人750回大遠忌法要」厳修
 4月27日(土)~30日(火)



大遠忌 盛大に厳修

四月二十七日〜三十日の四日間
 にわたり、「築地本願寺親鸞聖人
 七百五十回大遠忌法要」がご修行
 になりました。

この法要は、五十年毎の節目に
 あたる、親鸞聖人の年忌法要で七
 百五十回忌にあたります。

築地本願寺では、この法要をお
 迎えるにあたり、平成二十一年
 度に法要推進計画が策定されて以
 来、築地本願寺の門信徒・東京教
 区内の寺院門信徒が一丸となつ
 て、計画円成にむけて邁進してき
 ました。

法要は、ご門主様・新門様の御
 出座をいただき、「宗祖讃仰作
 法」のお勤めにより、関東各地か
 らのたくさんの方々の参詣者とも
 ともに賑々しくご修行されました。

また築地本願寺は、この法要に
 際し、本堂その他の改修や整備・
 本堂内陣のご修復が行われ、金箔
 彩色等があざやかに生まれ変わ
 りました。

現代の、不安や困難が少なく
 ない時代にあつて、この大遠忌法
 要を機縁として、新たな始まりを
 期待するものです。

第9期連続研修会（連研）開催中！

覚證寺住職 細川真彦

一期十二回にわたる連続研修会、略して「連研（れんけん）」は、各寺の門徒が交流し合いながら浄土真宗のみ教えに触れる研修会です。

最初の三回は仏教・真宗の基本などを学び、その後の各回はテーマにそった参加者同士の話し合いが中心になります。十名程度の班に分かれ、それぞれに思うところ語り合います。

テーマは、お仏壇やお葬式、お墓などの身近な仏事にまつわることから、苦しみ、しあわせ、平和、差別など、私たちに問われている課題まで、多岐にわたります。

とくに後半は、いわゆる正解のないテーマが続きます。つまり答えを教えてもらう研修会ではなく、浄土真宗の教えを聞く一人ひとりが、自ら問いを深めていく研修会だと言えます。

班ごとの話し合いでは、本当にいろいろな意見が出ます。真宗のみ教えを聞き、様々な意見を聞くことを通じて、自らの思いが揺さぶられます。

確かなものは何だろうか？。真実はどこにあるのか？ 仏法に出会い、自らを問う。それが連続研修会です。

第十期は、あなたが受講してみませんか。



連研第五回（本年六月）
明西寺にて開講の「おつとめ」



連研 班ごとの話し合い

法灯継承 ご門主様ご退任！

大谷光真ご門主は、本年四月十五日の立教開宗記念法要（西本願寺）の後、明年六月五日をもって、門主のご退任を発表されました。

ご門主は、昭和五十二（一九七七）年四月に、父であり先代門主の勝如上人（大谷光照）門主引退に伴い、三十一歳で本願寺住職及び第二十四代門主に就任されました。以来三十七年にわたりご門主としてさまざまな活躍をなされました。

その最大のご功績は、「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」のご修行でしょう。

大谷光真ご門主ご退任の後には、大谷光淳新門様が明年六月の法統継承式で第二十五代門主にご就任されます。

自ら為して自ら楽しむ

本光寺副住職 田中無量

「自ら為して怨みず

自ら為して自ら楽しむ」

一九〇一年二月、黙雷師は、訪れた被害地で次の和歌を詠んでいます。

浄土真宗本願寺派の僧侶、島地しまじもくろい黙雷師
 (一八三八—一九一一)の言葉です。

黙雷師は、幕末維新期の激動の時代に、長州藩のもとで活動し、維新前後には、教団の改革を行いました。宗門内での大きな働きとともに、宗門外に対しても、禁酒、女子教育、視覚障害のある方への教育、監獄教誨、死刑廃止等々、啓蒙と慈善を旨とした様々な活動に熱心な人物でした。しかも、「慈善の注意」として、その行動が、名誉を求める競争のようになることを戒め、「自ら為して怨みず、自ら為して自ら楽しむ」と述べて、今日のボランティア活動の理念ともいえることを、すでに語っています。

近年、黙雷師が、足尾鉍毒事件で、大変大きな活動をされていたことが、願教寺所蔵の資料から分かってきました。(安溪遊地・井竿富雄「資料紹介・島地黙雷ゆかりの願教寺所蔵の足尾鉍毒事件関係書類」を参照。)黙雷師は、鉍毒被害地を訪れ、帰京後には被害者救済について、衆議院の田中正造議員と相談し、また救済のための演説会などを行いました。

桑は枯れ稲はみのらず渡良瀬の
 川に小魚の影だにもなし

黙雷師は、このように現地に直接赴き、活動されました。

明治の三陸大津波、濃尾地震においても様々な慈善活動をされました。この黙雷師の活動は、二〇一一年三月一日、東日本大震災に見舞われた、私たちも、他人ごとではありません。

私が現在、講師を勤めさせていただいております、千代田女学園は、島地黙雷師が創設した学校です。本学園では、今年の夏休みの期間に、「自ら為して自ら楽しむ」の精神を掲げ、東北教区災害ボランティアセンター(本願寺派・仙台別院)で、二泊三日の「被災地ボランティア活動」に参加しました。私も引率者として、生徒とともに、行動致しました。(「本願寺新報」に短期連載あり)

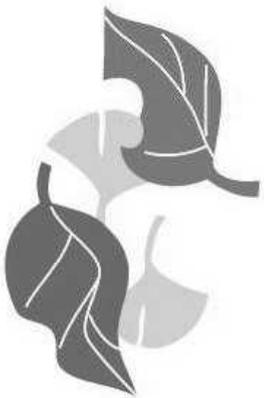
実際に被災地を訪れ、活動を行ってみて、初めてわかったことが、多々ありました。テレビや新聞の情報では得られない現実が、そこにはありました。二泊三日とい

う限られた時間では、それほど多くのことはできません。しかし現地の方には大変感謝されました。「ボランティアが一番ありがたい」と。震災から二年半近く経ち、ボランティアに参加される方は、減っているそうです。しかし、まだまだ、復興は進んでいません。今後も、本学園では、この活動を続けていくことにしました。

被災地での活動において、私の心には、「自ら為して怨みず、自ら為して楽しむ」の言葉が、何度となく届いてきました。

私たちはつい、自分のしたこと、為したことに誇り、名誉を求め、欲深く生きています。私は、こんなすごいことをした、自分だけよければそれで良いのだ、と。自分の都合を離れることはできず、他者のことまで、なかなか考えようとしません。

しかし現実には、様々な人々とつながりあり、あらゆる生き物のおかげで、今こうして生きています。困っているときは助け合い、共に悩み、共に生きていくという、当たり前のことの実践が、最も大切であること、それでいて、非常に難しいことを、「自ら為して自ら楽しむ」の言葉が、教えてくれているように、思えてなりません。



仏教壮年会

多摩組仏教壮年会連盟理事長

五味新悟ごみしんご

多摩組仏教壮年会連盟の活動

多摩組仏教壮年会連盟は、来年四月に結成十周年を迎えますが、この間、各寺院住職はじめ僧侶、門信徒の皆様のご理解とご支援をいただき、連盟綱領「自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念仏申す朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現」をめざして活動しています。

一、仏教壮年研修会の開催

昨年十二月十五日、調布市圓福寺に七十八名が参加して、総代世話人会と共催の仏教壮年研修会を開催し、群馬組西蓮寺住職艸香雄道師より「念仏は人生の力なり」と題してお話いただきました。また、仏教婦人会の皆様には布絵本「しんらんさま」をご公演いただきました。本年は、十二月十五日（日）、圓福寺に総代世話人会と共催の仏教壮年研修会を開催し、浄土真宗本願寺派総合研究所東京支所研究員前田壽雄先生より「なぜ蓮如上人は中興の祖とよばれるのか」と題してお話をいただきます。どなたでも参加出来ますので、お誘いあわせて是非ご参加ください。

二、仏教壮年会連盟理事研修会の開催

昨年十月二十五日に、千葉組天真寺に多摩組と千葉組東葛四力寺の四十名が参加して交流研修会を開催し、活動報告の後、相互交流会に参加しました。

本年は、十月十二日、芝組光明寺に多摩組、麻布組、芝組、西組の六十余名が参加して交流研修会を開催し、活動報告の後、相互交流会に参加しました。

三、東京教区仏教壮年会連盟

結成記念日研修会の参加

本年二月二十三・二十四日、箱根湯本に東京教区の仏壮会員三百二十名が参加して、東京教区仏壮連盟結成記念日研修会が開催されました。神奈川組寶光寺住職藤田恭爾師の記念法話、神奈川組仏壮会根元猛氏の活動報告の後、相互交流会に参加しました。来年は、二月二十二日（土）・二十三日（日）に日光鬼怒川で開催される計画です。

四、その他

昨年八月二十六日、調布市明西寺の仏教壮年会が結成二十周年を迎え、記念祝賀会が開催されました。

本年は、四月二十一日、国立市應善寺に門徒会が結成され東京教区仏壮連盟に加盟されました。

総代世話人会

多摩組総代世話人会代表

つちだ よしゆき
土田良幸

多摩組の総代・世話人は、各寺院の総代・世話人さんで実行委員会を組織して活動しています。

今年度の「総代世話人研修会」は、昨年同様、仏教壮年会との合同で平成二十五年十二月十五日（日）午後二時から、調布の圓福寺において講師に前田壽雄先生（浄土真宗本願寺派総合研究所東京支所研究員）をお招きして開催する事を決定いたしました。

詳細につきましては、決定次第改めて各寺院から、ご連絡申し上げます。

総代世話人に限らず、どなたでも参加できますので、皆様お誘い合せの上、ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

また実行委員会の研修と致しましては、毎年行っている「お寺訪問」では、十月に多摩市の阿弥陀寺のクラブ活動の作品展示会に参加致しました。

そして、平成二十六年三月に「お寺訪問」の報告を兼ねた実行委員会の開催を予定しています。



仏教婦人会

東京教区仏教婦人会連盟多摩組代表

磯川 歳子

東京教区仏教婦人会の代表をお受けして一年半がたちました。まだまだ教わる事ばかりです。

教区の委員会、多摩組の役員会、大恩寺の婦人会活動と大変忙しいのですが、元氣でお聴聞が出来、働かせていただける事に感謝です。

連盟での活動は、教区での年四回委員会・五月教区仏教婦人会総会・七月委員一泊研修会・九月教区仏教婦人会一泊研修会・十一月築地本願寺報恩講・三月教区仏教婦人会一日研修会・年四回のアソカ園でのボランティア活動、だいたいこのくらいです。

今年の一泊研修で新潟県上越市の「多しの里記念会」に行ってきました。
寒い越後の地で、親鸞聖人と恵信尼様の出会い、八十才で越後の地で生涯を終えられたと聞きました。ぜひ、恵信尼様のご生涯をもっと聞ける機会があればと思っています。

門徒推進員協議会

門徒推進員協議会世話人

麻木 純三郎

メンバーは昨年度まで十六名でしたが、新たに一名の方が加わり、十七名となりました。多摩組で初めての女性門徒推進員の、鶴飼毬子さん（西照寺）です。活動状況を報告します。

(1) 読書会・話し合い会の継続

昨年度より「高校生からの仏教入門・釈尊から親鸞聖人へ」（小池秀章師）をテキストに、開始しましたが、順調に推移しています。毎回「読み手」が替わり、声を出して読んだ後に、内容について話し合っております。

さらには、仏教全般や仏教と現実の社会の関わり合いなどについて、話し合いを実施しています。また、読書会の前に「お勤め」をしています。その後で「拝読浄土真宗のみ教え」を全員で唱和することを継続しています。

(2) 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要への参加

毎年九月十八日、会として参加しています。今年も有志の方が参加しました。「戦争で亡くなられたすべての方」を対象に法要を実施する事は、まさに仏教の教えを実践することと言えます。

(3) 東京教区門徒推進員協議会

一泊研修会への参加

教区内の門徒推進員を対象とした一泊研修会が毎年実施されています。

今年九月二十八日～二十九日、茨城西組の担当で、ホテルマークワンつくば研修学園を会場に開催され、多くの関係者が参加しました。

一日目は、相馬一意師（茨城西組西光寺住職本願寺派勸学）のご法話。その後、茨城東組・鎌倉組・群馬組の代表の方が各組の活動状況を報告しました。夜は恒例の懇親会で交流を深めました。

二日目は、お朝事のあと、バスで移動。茨城東組大覚寺、稲田御坊西念寺を参拝し、親鸞聖人のご苦勞をしのび解散。

(4) 多摩組連続研修会の支援・協力

昨年引き続き「第九期連続研修会」の支援・協力を行っています。裏方としての門徒推進員も、回を重ねることに要領を心得て、スムーズな運営が可能になりました。第八期から受け継いだノウハウを、どのように体系化していくかが、これからの課題と言えます。「第九期連続研修会」は来年度で終了する予定ですが、修了者から何人の門徒推進員が誕生するか、非常に楽しみです。

(5) 他団体・グループとの協力

門徒推進員の中には、仏教壮年会・総代世話人会の役職やお寺の世話役をされている方が多数います。今後、それらの団体・グループと協力し、お寺や多摩組の活動を活性化したいと考えております。

中ブロック門徒子弟研修会

サマーキャンプ in あじの

「キッズサンガ」運動の典型ともいえる、毎年恒例のサマーキャンプ（中ブロック門徒子弟研修会）は、八月八日から九日の一泊二日で、この度世界文化遺産に指定された、忍野八海の「富岳苑」へ行ってまいりました。

参加の小学生は二十七名、OB、OGの中学生から大学生を含め、スタッフ四十名の合計六十七名での開催となりました。

まずは、集合場所となった圓成寺を会場に、新門さまのご臨席のもと、開会式を行いました。

境内で写真撮影後、バスで忍野八海へ移動し、宿にて昼食の後は、ストローグライダーを作り、飛距離の競争です。



飛べ！ストローグライダー

上手に作ったつもりでも、飛ばし方で飛距離は左右され、年齢に関係なく楽しめたようです。



おいしい顔ってこんな顔！

夕食は、恒例のバーベキュー。お腹一杯いただきました。

夕食後は、子供たちには秘密にしておいた、忍野八海祭りのイベント、打ち上げ花火を見に、ナイトハイイクです。

予想以上にたくさん打ち上げられ、スタッフも楽しめました。

翌朝、元氣よくおあさじの後は、朝の涼しいうちに、忍野八海めぐりです。

深く透明な富士山からの湧き水を、いくつも見学したり、その天然水を飲んだりしました。

朝食後、近くのさかな公園へ移動し、アスレチックや水場で遊んだり、川魚の水族館を見学したり。

宿に戻って昼食の後、バスで圓成寺へ戻り、閉会式。修了証やお土産を受け取り、解散しました。

また来年ね！解散前の記念写真



毎年、OB・OGがサブリーダーとして参加してくれて、自分達が体験したことを踏まえて、参加者の面倒を見てくれたり、りっぱに成長したことをスタッフにからかわれたり、大人も子供も楽しめた二日間でした。

また来年、子供たちの笑顔を楽しみに、いろいろ企画を考えたいと思います。

（圓城）

ストローグライダー
ストローに、紙で作ったわっかを2つつけて、先っぽにおもりをつけます。とても簡単で、誰でもできるのですが、バランスが意外に難しい。

住職に聞きました

お寺を訪ねて

誓願寺（八王子市大楽寺町）

今回お訪ねした大楽山誓願寺は、多摩地区の学園都市として、発展を続けている八王子市の郊外に位置し、JR西八王子駅よりタクシーで一〇分、住宅地の中にあります。本堂を中心に寺院全体はよく整備され、築二十年を経過しているとは思えぬ立派なたたずまいです。そして、お寺から車で五分ほど、JR高尾駅方面に向かったところにある公園墓地八王子浄苑の経営母体でもあります。

お寺は、先代藤原忠行師（現住職の父上）が熊本県の出身、お家は代々浄土真宗本願寺派のご門徒で浄土真宗に深いご縁の中で育ちましたが、十代のとき脊髄カリエスの病に罹り、宗教的な目覚めから得度し、昭和五十三年（一九七八年）自費で布教所を開設したことに始まります。その後地道に布教活動に努められ、平成五年（一九九三年）に当地に寺院を創建しました。同年一二月に六十二歳でご往生され、本堂の最初の葬儀がご尊父であった由。現住職藤原忠房師（当時副住職）が二十五歳で継職し、現在に至っております。

ご住職は、自寺の他に多くの団体の役員も引き受けられておられ、多摩組の若手僧侶の集まりである清風会会長や、また、今

年より多摩組実践運動委員長を担当されています。

お寺では寺報を二ヶ月毎に発行しております。ご住職の思いを語った「当方見聞録」やお寺の活動状況・行事予定などを掲載し、ご門徒の方との意思疎通が図られております。

行事としては、法座が毎月第三木曜日午後一時から、そのあと仏教壮年会の例会も同日に行われ活発に活動されております。また毎月十日には大楽の集いがあり、そこでは料理サークルと写経会（教本は、勤行集）を行っております。お経を書いて味わうことにより、自然と身近に感ずる利点があるそうです。そのほか新年会・暑気払い・年一回の旅行を行っています。

今年の特筆すべき活動としては、仏教壮年会を中心として、十一月の報恩講に発行することを目指してエンディングノートの編集に取り組んでおります。

これからの活動として、活性化するため、敷居の低いお寺を目指して、若いお母



藤原住職と坊守様

さん・子どもたち・仏教に縁のない方々が来てもらえるような企画をしてゆきたいと抱負を語られました。

帰途ご案内頂きました八王子浄苑は、ステンンドグラスを用いた礼拝堂を有するモダンな建物が建立されており、墓地は他の宗派を含め千五百基ほどあります。

その一角にある誓願寺用の墓地の敷地に、永代追悼墓「えにしの碑」が建てられてあります。「えにしの碑」は、お一人の方、後継者のいない方、ご夫婦、既存のお墓には入りたくない方・・・現代の世相を反映して多様な価値観、ライフスタイルを求めめる方にも対応する考え方で建立されたということです。

これからもご住職のますますのご活躍とお寺の発展を念じ、誓願寺と八王子浄苑をあとにしました。

（麻木・佐藤・辻）



えにしの碑

西本願寺 (京都・本山)

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町

電話 075(371)5181

FAX 075(351)1211

築地本願寺・東京教区教務所

〒104-8435 東京都中央区築地3丁目15番1号

築地本願寺電話 03(3541)1131

教務所電話 03(3541)1666

東京教区多摩組寺院所在地

調布市

光徳寺 (こうとくじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-38-27
TEL03(3300)6431 FAX03(5384)3344
(法座:不定期 お問い合わせ下さい)

明西寺 (みょうさいじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-43-5
TEL03(3300)1901 FAX03(3300)2681
(法座:10日前後婦人会 1.4.8月壮年会)

延浄寺 (えんじょうじ) 〒182-0006
調布市西つつじが丘2-30-1
TEL03(3326)7337 FAX03(3326)5037
(法座:不定期 相談日第1土曜日午後予約)

長専寺 (ちょうせんじ) 〒182-0033
調布市富士見町1-35-4
TEL042(482)3411 FAX042(498)1105
(法座:不定期)

西照寺 (さいしょうじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-39
TEL03(3300)7734 FAX03(3300)7794
(法座:毎月8日・第4土曜 親鸞会)

光西寺 (こうさいじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-44-2
TEL03(3300)5054 FAX 同左
(法座:不定期)

光源寺 (こうげんじ) 〒182-0006
調布市西つつじが丘2-30-11
TEL03(3300)0881 FAX03(3308)6289
(法座:隔月奇数月 お問い合わせ下さい)

覺證寺 (かくしょうじ) 〒182-0033
調布市富士見町1-35-5
TEL042(482)5556 FAX042(480)0166
(法座:第1土曜日・聖典学習会 月1回)

正善寺 (しょうぜんじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-42-5
TEL03(3300)6064 FAX03(3300)6687
(法座:第1日曜日 (1日なら8日))

安養寺 (あんようじ) 〒182-0003
調布市若葉町1-44-5
TEL03(3307)5605 FAX03(3307)5496
(法座:第1日曜日)

圓福寺 (えんぶくじ) 〒182-0022
調布市国領町1-10-11
TEL042(482)7955 FAX042(481)4734
(法座:不定期)

国立市

應善寺 (おうぜんじ) 〒186-0002
国立市東2-2-1
TEL042(572)0043 FAX042(572)0148
(法座:毎月1日)

立川市

光西寺 (こうさいじ) 〒190-0021
立川市羽衣町3-20-16
TEL042(522)3413 <http://www.kousaiji.com/>
(法座:毎週金曜晩又は土曜昼 各種仏教講座)

小平市

照恩寺 (しょうおんじ) 〒187-0041
小平市美園町3-23-20
TEL042(341)2935 FAX042(347)4122
(法座:毎月13日・第1土曜・第4土曜)

青梅市

浄弘寺 (じょうこうじ) 〒198-0036
青梅市河辺町8-19-8
TEL0428(32)1769 FAX0428(32)2010
(法座:第3土曜日)

八王子市

専念寺 (せんねんじ) 〒192-0063
八王子市元横山町2-14-24
TEL042(644)3491 FAX042(648)6087
(法座:隔月1回 お問い合わせ下さい)

誓願寺 (せいがんじ) 〒193-0816
八王子市大楽寺町209-5
TEL042(651)0073 FAX042(651)6183
(法座:第3木曜日・毎月10日大楽の集い)

光照寺 (こうしょうじ) 〒192-0912
八王子市絹ヶ丘3-8-1
TEL042(635)3754 FAX 同左
(法座:不定期)

本光寺 (ほんこうじ) 〒1923-0832
八王子市散田町4-40-10
TEL042(664)2196 FAX042(663)2501
(法座:仏教講座 第3金曜日)

延立寺 (えんりゅうじ) 〒193-0802
八王子市犬目町681
TEL042(654)2429 FAX042(654)6930
(法座:第4月曜日)

大恩寺 (だいおんじ) 〒193-0943
八王子市寺田町1085
TEL042(668)0889 FAX042(668)1825
(法座:第2土曜・第4日曜・第1土曜(婦人会))

町田市

圓成寺 (えんじょうじ) 〒194-0004
町田市鶴間1210
TEL042(795)0181 FAX042(795)0444
(法座:毎月28日)

(えんじょうじしゅつちょうしょ)
圓成寺出張所 〒194-0035
町田市忠生3-24-13
TEL042(792)3007 FAX042(792)3006
(法座:毎月10日 休日なら翌日)

(まちだふきょうしょ こうげんじ)
町田布教所 高源寺 〒195-0063
町田市野津田町2534-20
TEL042(737)3236 FAX 同左
(法座:第2土曜・23日前後の平日)

多摩市

阿弥陀寺 (あみだじ) 〒206-0013
多摩市桜ヶ丘1-24-2
TEL042(375)8055 FAX042(337)4889
(法座:年3回・毎月28日 明宝会・毎月15日前後
極楽トンボ会)

稲城市

玄忠寺 (げんちゅうじ) 〒206-0822
稲城市坂浜878-6
TEL042(331)3655 FAX042(331)3511
(法座:第3日曜日)

(法座へお出かけの折には、必ず電話にて日時をご確認の上、お出かけ下さい。)